

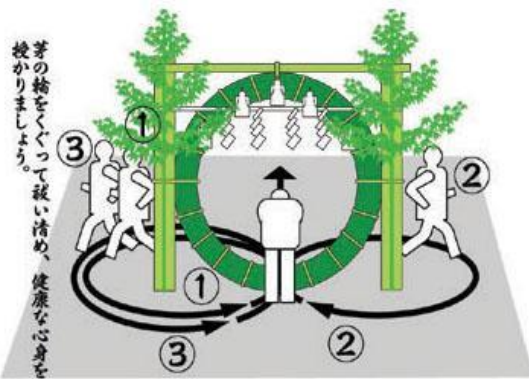
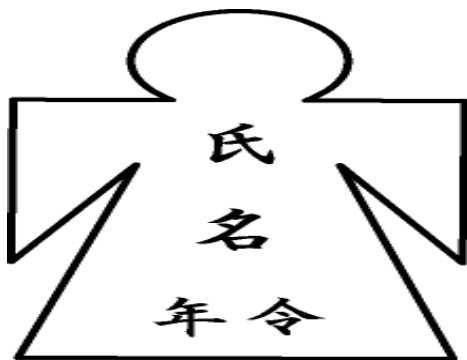
# 夏越大祓式

六月三十日  
午後三時齋行

私たちが日頃知らず知らずの内に  
おかししたり憑いたりした心身の疲  
れや穢れ、禍を一年の半分にあた  
る六月三十日に人形に移して祓い  
清め、また身も心も元気にこの猛  
暑を乗り切るように祈る神事を

「大祓」といいます。

毎年六月と十二月の二回、その月  
の末日に行われます。六月の大祓  
を「夏越の大祓」、十二月の大祓  
を「年越の大祓」ともいいます。  
平安時代の法典「延喜式」にも、  
六月と十二月の大祓が記されてお  
り、古くから行われていたことが  
わかります。



茅の輪をくぐって祓い清め、健康な心身を授かりましょう。

「茅の輪」のくぐり方

茅の輪くぐりは、次の唱え詞を奏上しながら行います。

「祓へ給へ 清め給へ」

守り給へ 幸へ給へ」

はじめに、茅の輪の前に立ち、

一礼してくぐります(一回目)

次に、①左に廻って、茅の輪の前に立ち

一礼してくぐります(二回目)

次に、②右に廻って、茅の輪の前に立ち

一礼してくぐります(三回目)

次に、③左に廻って、茅の輪の前に立ち

一礼してくぐり、御神前に進んでお参りします。

◎形代(かたしろ)について

「形代」はわが身の代わりとして、知らず知らずの内、身についた罪や穢れを移し祓い清めるためのものです。

①形代に家族各各のお名前と年齢を書きます。

②その形代で体を撫で、息を吹きかけます。

③形代を袋に納めます。

※形代(五体一組百円)は授与所にてお渡ししております。